

令和7年度 学校経営計画・学校評価

■4月8日(火)提出

■10月2日(木)提出

■3月13日(金)提出

学校番号	43	宿毛工業	高等学校	課程	全
------	----	------	------	----	---

高知県の教育の基本理念	(1)学ぶ意欲にあふれ、心豊かでたくましく夢に向かって羽ばたく人 (2)郷土への愛着と誇りを持ち、高い志を掲げ、日本や高知の未来を切り拓く人 (3)多様な個性や生き方を互いに認め、尊重し、協働し合う人	スクール・ミッション	企業や関係機関との連携を通して、高い専門知識や技術を習得したスペシャリストを養成し、次世代の産業の担い手を育成する。 ものづくり教育や地域貢献活動を通して、工業分野の専門性の高いスキルや協働する力を身に付け、地域の産業振興に寄与する技術者を育成する。
スクールのポリシー	【アドミッション・ポリシー】(入学者受け入れ方針) ・自己の目標に向けて高い志を持ち、意欲的に取り組もうとする生徒を募集します。 ・ものづくりに興味関心があり、主体的に学習する生徒を募集します。 ・多種多様な資格試験へ積極的に挑戦する、意欲を持った生徒を募集します。 ・相手の立場に立ち物事を考えることができる、思いやりのある生徒を募集します。 ・学校行事、部活動、ボランティア活動に積極的に取り組む意欲のある生徒を募集します。 【グラデュエーション・ポリシー】(育成を目指す生徒の資質・能力) ・主体的に学ぶ意欲を身に付け、自己実現に挑戦する力を育成します。 ・工業に関する知識や技術・技能を身に付け、創意工夫できる力を育成します。 ・実社会で役立つ資格を取得し、社会貢献できる専門力を育成します。 ・心身ともに健康で豊かな人間性と創造性を備えた生徒を育成します。 ・地域社会の発展に貢献できる担い手として活躍できる生徒を育成します。	【カリキュラム・ポリシー】(教育課程の編成・実施方針) ・就職、進学、公務員希望に対応できる科目選択制を導入し、進路選択を充実します。 ・ものづくりに関する実践的な実習、課題研究を行います。 ・各種資格試験への挑戦を推奨し、補習や個別指導を行います。 ・地元企業と連携し、職業体験や技術指導等のキャリア教育を行います。 ・タブレット端末等、ICT機器を活用した効果的な授業を行います。 ・学校行事、部活動、ボランティア活動を充実させます。	

学校関係者評価	
【学力の向上】 評価 【 A 】	国公立大学への合格者が複数出るなど、進路実現に向けた先生方の熱心な補習や個別指導の成果が着実に表れており、地域としても大変喜ばしく、その尽力を高く評価いたします。また、学年が上がるにつれて生徒の学習に対する肯定的な評価が高まっている点も素晴らしい傾向です。今後も生徒一人ひとりに寄り添ったきめ細やかな指導を継続していただき、我々地域としても子どもたちの学びの環境づくりを応援していきたいと考えています。
【社会性の育成】 評価 【 B 】	『たたら製鐵』をはじめとする地元企業や地域社会との協働学習、ボランティア活動などを通して、生徒たちが地域に積極的に貢献する姿を身近で頼もしく拝見しています。こうした実践的な工業教育は、生徒の技術力だけでなく、地域社会で通用するコミュニケーション能力や豊かな社会性を育てており、地域からの信頼も高まっています。今後は、さらに多くの生徒が部活動や地域活動に主体的に参加し、将来の地元産業を牽引する力強い担い手として成長していくことを期待しています。
【チーム学校】 評価 【 A 】	DXの推進による業務効率化や、不祥事防止に向けた組織的な研修、休暇取得の促進など、教職員の働き方改革が着実に進んでいる点から、学校全体の健全な向上心がうかがえます。先生方が心身ともにゆとりを持って、笑顔で生徒と向き合える環境づくりは、より良い教育活動の要です。私たち運営協議会としても、チーム宿毛工業を支える良きパートナーとして学校の取り組みを積極的にサポートし、魅力ある学校づくりに取り組みます。

(評価)A:目標を十分に達成 B:目標をほぼ達成 C:やや不十分 D:不十分

重点項目	育成を目指す資質・能力【P】	現状と目標(評価指標)	具体的な取組内容【D】	中間評価【C】	中間評価後の取組内容【P・D】	年度末評価【C】	見直しのポイント【A】
学力の向上	★確かな学力 ○基礎となる知識・技能 ○思考力、判断力、表現力 ○生涯にわたって学び続ける意欲 ★自己の将来とのつながりを見通した学び ○社会の形成に主体的に参画するために必要な資質・能力 ○キャリアデザイン力(やりぬく力)	○C層以上の生徒の増加 ・1年:(R7年度1年4月)48.7% →(R7年度1年11月)53.7% ・2年:(R6年度1年4月)54.9% →(R7年度2年11月)57.9% ○授業外学習時間の増加(オリジナルアンケート問2のほとんど勉強しない生徒の割合) 1年:R6 17.5%→15% 2年:R6 43.8%→35% ○将来の可能性を広げるために勉強をがんばっている生徒の増加(オリジナルアンケート問14) R6 86.5%→90% ○各種資格検定取得率 3年次80%以上	・授業改善「めあて・思判表・振り返り」ができる ・ICTを活用する授業づくりを行う ・学習支援員事業を含めた基礎学力定着補習の実施 ・各教科で小テストの実施や課題を出し提出させ、家庭学習の成果を授業や評価で表す ・各種資格・検定試験取得に向けた補習の実施	B ○C層以上の生徒の割合 (R7年2年4月54%) ○授業改善 公開授業週間の設定(6/10~7/2) 振り返りの内容が適切である(73.7%) 授業と授業外をつなぐ取組に課題がある(84.2%) ○授業外学習時間は1年生(32.5%)、2年生(60.6%) ○将来のための勉強をしている生徒の増加(90.7%)目標達成。	・10/21校内研修「授業と授業外をつなぐ取組について」 ・公開授業週間の設定(10/23~12/8) ・放課後補習の実施 ・家庭学習の課題提供(すらすら活用) ・学習支援員との連携 ・基礎力診断テストの分析及び合同教科会の実施	B ・第2回基礎力診断テスト(11月実施)のC層以上、1年生(57.5%)、2年生(58.8%)1・2年生とも目標値達成。 ・授業外学習時間は1年生(46.3%)、2年生(63.9%)、目標値未達成。 ・将来のための勉強をしている生徒の増加(問14→89.6%)目標値未達成。 ・日々の授業はもとより、特別活動等でも、生徒一人ひとりの進路実現に向けた取組を強化し、目標を持った学校生活を行う。	・小テストや日々の課題を提出させ、家庭学習の成果を授業や評価で表す。 ・授業デザインプロジェクトを活用して授業改善を行い、生徒の理解度を図るとともに継続して、ICT機器が効果的に活用できる授業に積極的に取り組む。 ・日々の授業はもとより、特別活動等でも、生徒一人ひとりの進路実現に向けた取組を強化し、目標を持った学校生活を行う。
社会性の育成	★豊かな心、多様性・包摂性の尊重 ○豊かな人間性・道徳性・社会性 ○他者への思いやり(地域・社会貢献、ボランティア活動等も含む)	○人と一緒に何かをするときは、相手の気持ちを考えて行動している(オリジナルアンケート問26) R6 94.2% → 95%以上 ○何か困ったことや問題が起きたとき、周りの人に相談することができる(オリジナルアンケート問24) R6 85.6% → 87%以上 ○高校入学以降、地域や社会をよくするために、地域貢献活動やボランティア活動などを行ったことがある(オリジナルアンケート問21) R6 82.8% → 65%以上 ○部活動加入率(運動部+文化)R6 88% → 90%以上	・県教委各事業(企業・学校見学、インターンシップ、産業教育共同研究、外部講師活用、ソーシャルスキルアップ事業)の活用 ・校種間交流事業(ものづくり教室、出前講座) ・各種生徒研究発表会へ参加 ・課題研究や防災活動による地域貢献 ・部活動への参加を推奨	B ○人と一緒に何かをするときは、相手の気持ちを考えて行動している(96.7%)目標値達成 ○何か困ったことや問題が起きたとき、周りの人に相談することができる(83.0%) ○高校入学以降、地域や社会をよくするために、地域貢献活動やボランティア活動などを行ったことがある(60.3%) ○部活動加入率(79.8%)	・県教委各事業の活用 ・校種間交流事業(ものづくり教室、出前講座) ・ボランティア活動へ参加 ・学校行事の積極的な参加 ・生徒研究発表会へ参加 ・キャリアノートの活用	B ○人と一緒に何かをするときは、相手の気持ちを考えて行動している(96.5%)目標値達成 ○何か困ったことや問題が起きたとき、周りの人に相談することができる(86.9%) ○高校入学以降、地域や社会をよくするために、地域貢献活動やボランティア活動などを行ったことがある(67.0%) ○部活動加入率(84.2%)	・限られた生徒の生活習慣指導、支援を行う。 ・ボランティア活動や発表会における活動機会をできるだけ増やし、コミュニケーション能力を高める。 ・部活動の加入を推奨し、加入率を上げて、学校活性化に取り組む。 ・ニーズに対応した部活動の精選等
取組項目	【取組のねらい】 ○生徒の社会的自立・社会参画に必要な資質・能力の育成 ○地域・関係機関との連携	○テレビのニュース、新聞、ウェブサイトやSNS等を通じて、地域や社会の出来事に関する情報を得ている(オリジナルアンケート問20) R6 82.6% → 85%以上 ○地域・関係機関との連携回数 2回以上	・インターンシップの実施 ・ものづくり総合技術展への出展、見学 ・企業と連携した授業やものづくりの推進 ・たたら製鐵と刃物づくり(機械専攻) ・課題研究等で地域活性化に寄与するものづくり	B ○社会性(基礎)の増加(77.9%) ○企業・学校との連携 学校見学・企業見学・企業連携の実施 ○たたら製鐵(10/1)実施操業	建築専攻のインタビューシップの追加 ・ものづくり総合技術展への出展準備、見学は、1年生全員が11月13日 ・幅多コンソーシアム参加 ・地域活性化に寄与するものづくりの実施	A ・社会性(基礎)の増加(問20→83.4%)目標未達成。 ・産業教育共同研究(機械専攻)は、企業との取組(計5回)が終了し、生徒の技術力が向上した。 ・たたら製鐵は、外部講師を計5日間招へいし、作品が完成した。 ・地域と連携しながら、ボランティアなど活動をしている。肯定意見(生徒88%、保護者78%、教職員96%)	・様々な事業を活用し、地域産業や企業について理解を深めるとともに、共同して実践的な研究活動を継続させる。 ・地域活性化に寄与する取組を推進する。
教科横断的教育	【取組のねらい】 ○学習の基盤となる言語能力や情報活用能力の育成 ○各教科の学びを実社会での課題発見や解決に結び付ける力の育成	○各教科、言語活動や情報活用能力を育成する場面を意識的に設定した回数(各学期:2回) ○各教科の学びが実社会での課題発見や解決に結び付けている成果物の割合(3年生課題研究:観点別評価A 60%)	・授業の中で発表できる時間を確保 ・課題研究の成果物を発表 ・定期考査で課題を解決できる思考・判断・表現ができる	B ○各教科、言語活動や情報活用能力を育成する場面は実践できている。 ○課題研究:観点別評価Aの割合(58.2%)	・情報機器類を活用した授業を行っている。 ・個人、ペア、グループ等の共同学習を行い、全体共有で学習を深めている。	B ・各教科、言語活動や情報活用能力を育成する場面を意識的に設定している。(各学期:2回)目標値達成。 ・課題研究:観点別評価 Aの割合(2学期53.8%)	安定した進路実現に向けた取組を行うことで学校の魅力化に繋がる。継続して国家資格試験への挑戦を行うとともに、来年度も長期休業期間を活用してオープンスクールを実施する。

重点項目	取組のねらい【P】	現状と目標(評価指標)	具体的な取組内容【D】	中間評価【C】	中間評価後の取組内容【P・D】	年度末評価【C】	見直しのポイント【A】
学校の振興	★学校の魅力化・特色化 ○ものづくり教育の充実 ○進路実現 ○各種資格取得の推奨 ○デジタル教育の推進 ○各専攻のPR ○防災教育の推進	○魅力化・特色化の具体的な目標(指標) ・ものづくりを通じた社会人基礎力育成(課題研究:発表会参加、成果物) ・卒業時の進路決定 100% ・タブレット端末活用割合 100% ・各専攻・専攻防災ものづくり(課題研究:成果物) ○学校運営協議会等の実施回数(2回)	・生徒研究発表会の実施 ・就職、進学、公務員補習の実施 ・デジタル教育に関する校内研修 ・外部専門人材の活用 ・親子ものづくり教室の開催 ・親友のつながり(地域中・高生、保護者、教員対象) ・課題研究等で防災関係のものづくり ・DXハイスクールによるICTの充実	A ○親子ものづくり教室8/2・3実施 ○各専攻で課題研究成果物を製作中 ○タブレット端末活用割合(100%)、全ての科専攻、学年で活用 ○オープンスクール8/22開催(参加者:生徒100名、保護者・教員57名、計157名) ○DXハイスクール(PC21台 ノートPC21台設置)ラボの設置 学校運営協議会8/27 実施	・各専攻で、課題研究成果物を計画を持って製作し、その取組内容を発表するための準備を行っている。 ・進路決定100%を目指し、学校全体で指導を行っている。	A ・卒業時の進路決定(97.6%)目標値未達成。 ・タブレット端末活用割合(100%)、全ての科専攻、学年で活用 ・資格取得等に向け積極的に取り組んでいる肯定的意見(生徒:79%、保護者85%、教職員98%) ・西日本高校初車検用検査ツールを導入・活用(DXハイスクール 自動車)	・各補習、面接指導等を継続して実施する。 ・早朝及び放課後の時間帯を活用した検定・資格試験対策学習を継続して実施する。 ・難易度の高い各種検定、資格試験へ受験を促す。
チーム学校	★教職員の倫理観の堅持 ○不祥事防止対策の徹底 ○よりよい職場風土づくり ○教職員のメンタルヘルス ○不祥事発生時の適切な対応	○倫理観堅持のための具体的な目標(指標) ・不祥事発生件数0件 ・不祥事防止強化月間(6月、12月) ○校内研修の実施回数(3回) ○不祥事防止委員会の実施回数(3回)	・ワークシートを使った校内研修の開催 ・不祥事根絶チェックリストを2回実施 ・不祥事防止委員会の開催 ・衛生委員会での情報共有 ・目標設定シートによる面談の実施	A ○校内研修 6回 ○不祥事防止委員会 6回 ○教職員への注意喚起、周知 ○6月を不祥事防止強化月間に指定 ○「教職員等による児童生徒性暴力等が発生した場合の対応」作成 ○目標設定シートによる面談の実施	・不祥事防止委員会、職員朝礼、定例職員会等で、教職員の不祥事防止の徹底を行う。 ・不祥事防止強化月間を12月に指定	A ・校内研修(各職員会後)12回 計12回 ・不祥事防止委員会(運営委員会後)12回 計12回 ・教職員への注意喚起、周知 動画視聴100% ・6・12月を不祥事防止強化月間に指定	・更に、様々な機会をとおして、教職員一人ひとりが不祥事を自分ごとと捉えるように、不祥事の根絶に向けての取組を行う。
働き方改革	★長時間勤務の解消 ○良好な健康状態を保つ ○各種休暇の完全消化 ○時間外労働時間60時間超ゼロを目指す	○勤務時間外労働時間45時間超(30%以内) ○勤務時間外労働時間60時間超(10%以内) ○職員会、各種委員会の勤務時間内終了 ○ICT教材及び教材、教員の共有化 ○夏期休暇取得率(100%)	・各分掌業務の分担化 ・部活動サポート事業等の外部人材の活用を積極的に行う(運動系・文化系) ・運営委員会や定例職員会のペーパーレスの継続及び勤務時間内終了 ・各教科で教材を共有し作成時間短縮 ・長期休業期間中に閉校日を設定	A ○勤務時間外長時間勤務者4月~9月まで45時間超は累積24名(月平均4.0人8.7%)、目標値達成 ○勤務時間外長時間勤務者4月~9月まで60時間超は累積11名(月平均1.8人3.9%)、目標値達成 ○夏期休暇取得率4.2日/人	・長期勤務者へのヒアリング ・部活動顧問の業務分担化 ・継続した運営委員会、定例職員会、各種会議の勤務時間内終了およびペーパーレス化 ・管理職、守衛さんによる校内巡回の継続	B ・勤務時間外長時間勤務者4月~2月まで45時間超は累積34名(月平均3人6.7%)、目標値達成 ・勤務時間外長時間勤務者4月~2月まで60時間超は累積18名(月平均1.5人3.6%)、目標値達成 ・夏期休暇取得率(84%)目標値未達成	・守衛さんによる巡回、戸締りの継続(時刻19:00目途)。 ・管理職からの声かけ、巡回。 ・夏期、冬期休業中に閉校日を5日間設けることで休暇を取得しやすくする。 ・分掌業務では業務分担の一覧作成を継続して行う。 ・部活動指導で休みがとれる時期は積極的に休暇を取得する。